



2018年12月期 第3四半期 決算説明資料

2018年 11月 8日
富士ソフト 株式会社



目次

2018年12月期第3四半期 決算

- P2. 1.連結業績ハイライト
- P4. 2.主なグループ会社売上高・営業利益
- P5. 3.連結セグメント別売上高・営業利益
- P6. 4.連結損益計算書
- P7. 5.連結貸借対照表
- P8. 6.連結キャッシュ・フロー計算書
- P9. 7.連結S I 事業の受注高・受注残高



1.連結業績ハイライト① (3Q累計実績)

売上高はSI事業の好調により増収

◇売上高は、プロダクト・サービス、自動車関連、FAなど機械制御系、情報通信業向け、金融業向けを中心に全般的にSI事業が好調に推移し、前同比113.3%の152,783百万円となりました。

営業利益は増収および原価率の改善により増益

◇営業利益は、増収および不採算案件の抑制や生産性向上による原価率改善により前同比127.6%の8,660百万円となりました。

◇経常利益は、営業増益および持分法投資利益や為替差益の増加などにより、前同比130.6%の9,315百万円となりました。

◇親会社株主に帰属する四半期純利益は、前同比117.4%の4,597百万円となりました。

(単位：百万円)

	2017年12月期 3Q累計実績	2018年12月期 3Q累計実績	前同差	前同比	2018年12月期 3Q累計計画	計画比
売上高	134,809	152,783	+17,973	113.3%	139,200	109.8%
営業利益	6,785	8,660	+1,875	127.6%	6,940	124.8%
営業利益率	5.0%	5.7%			5.0%	
経常利益	7,133	9,315	+2,181	130.6%	7,330	127.1%
経常利益率	5.3%	6.1%			5.3%	
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,916	4,597	+680	117.4%	4,260	107.9%
親会社株主に帰属する四半期純利益率	2.9%	3.0%			3.1%	

1.連結業績ハイライト② (3Q区間7-9月実績)

売上高は前同比116.6%と増収

売上原価率は大型の他社製品販売により77.1%に

◇売上原価率は、受託開発原価率は改善したものの、大型の他社製品販売（ソフトウェアライセンス）により前年同期より増加し、77.1%となりました。（前年同期76.7%）

販売費及び一般管理費は前年同期より760百万円増加

◇体制強化による人件費の増加やオフィス新設に伴う経費支出などにより、前年同期より760百万円増加し、8,563百万円となりました。

営業利益は前同比130.0%と大幅に増益

（単位：百万円）

	2018年12月期 2Q累計実績	前同差	前同比	2018年12月期 3Q区間実績	前同差	前同比
売上高	100,688	+10,575	111.7%	52,095	+7,398	116.6%
売上原価	76,960	+7,441	110.7%	40,153	+5,857	117.1%
売上原価率	76.4%			77.1%		
売上総利益	23,727	+3,134	115.2%	11,941	+1,540	114.8%
販売費及び一般管理費	18,445	+2,039	112.4%	8,563	+760	109.7%
営業利益	5,281	+1,094	126.1%	3,378	+780	130.0%
営業利益率	5.2%			6.5%		



2.主なグループ会社売上高・営業利益

(単位:百万円)

	2018年 12月期	売上高	営業利益	
富士ソフト	3Q累計実績	98,426	5,064	売上高は、プロダクト・サービス、自動車関連、FAなど機械制御系、情報通信業向け、金融業向けを中心に全般的にSI事業が好調に推移し、増収となりました。営業利益は、体制整備や拠点整備などの先行投資を積極的に行ったものの、増収および原価率の改善により大幅に増益となりました。
	前同差	+14,722	+1,177	
	前同比	117.6%	130.3%	
サイバネットシステム	3Q累計実績	15,097	1,250	売上高は、国内は主力のMCAE分野及び光学設計分野が好調に推移し、ITソリューション分野及びモデルベース開発エンジニアリングサービスも好調に推移しました。海外は、台湾及び韓国の販売子会社が好調に推移し、増収となりました。営業利益は増収により増益となりました。(親会社株主に帰属する四半期純利益は、のれん減損損失等の特別損失の計上により、損失となりました。)
	前同差	+1,927	+243	
	前同比	114.6%	124.1%	
ヴィンクス	3Q累計実績	19,025	1,172	売上高は、ストック型ビジネス(サービス事業)への移行に伴い受注から売上計上までの期間が長期化した影響などにより、減収となりました。営業利益は、原価低減施策が奏功したことにより、増益となりました。
	前同差	△ 1,115	+151	
	前同比	94.5%	114.9%	
サイバーコム	3Q累計実績	8,847	458	売上高は、車載システム等の制御系ソフトウェア開発及び生保システム等の業務系ソフトウェア開発が好調に推移し、増収となりました。営業利益は、増収および生産性向上による原価改善に加え、前年度発生した本社移転費用の減少などにより増益となりました。
	前同差	+878	+118	
	前同比	111.0%	134.9%	
富士ソフト サービスビューロ	3Q累計実績	7,917	381	売上高は、コールセンター・BPOとも官公庁向けが引き続き伸長し民間も拡大し増収となりました。営業利益は、増収及び原価低減により拠点拡充やインフラ整備等の販管費の増加を吸収し増益となりました。
	前同差	+709	+87	
	前同比	109.8%	129.7%	



3.連結セグメント別売上高・営業利益

(単位：百万円)

	2018年12月期売上高		前同差	前同比	2018年12月期営業利益		前同差	前同比
	3Q累計実績	構成比			3Q累計実績	営業利益率		
全社計	152,783	100.0%	+17,973	113.3%	8,660	5.7%	+1,875	127.6%
SI事業	141,836	92.8%	+16,935	113.6%	7,386	5.2%	+1,812	132.5%
システム構築	84,353	55.2%	+9,090	112.1%	4,386	5.2%	+846	123.9%
組込系／制御系ソフトウェア	43,832	28.7%	+4,748	112.2%	2,744	6.3%	+649	131.0%
業務系ソフトウェア	40,520	26.5%	+4,341	112.0%	1,641	4.1%	+196	113.6%
プロダクト・サービス	57,482	37.6%	+7,845	115.8%	3,000	5.2%	+966	147.5%
プロダクト・サービス	46,021	30.1%	+7,638	119.9%	2,170	4.7%	+624	140.4%
アウトソーシング	11,461	7.5%	+206	101.8%	829	7.2%	+341	169.9%
ファシリティ事業	2,167	1.4%	+153	107.6%	792	36.6%	△46	94.5%
その他事業	8,779	5.7%	+884	111.2%	481	5.5%	+109	129.3%

セグメント別売上高のポイント

●組込系／制御系ソフトウェア

売上高は、自動車関連、機械制御系が引き続き好調に推移したことなどにより、前同比112.2%と増収になりました。営業利益は、増収および原価率の改善により前同比131.0%と増益になりました。

●業務系ソフトウェア

売上高は、情報通信業向け、金融業向け、製造業向けを中心に全般的に好調に推移し、前同比112.0%と増収になりました。営業利益は、増収により前同比113.6%と増益になりました。

●プロダクト・サービス

売上高は、自社プロダクト・他社製品の販売および付随する関連サービスが好調に推移し、前同比119.9%と増収になりました。営業利益は、増収により前同比140.4%と増益になりました。

●アウトソーシング

売上高は、運用保守・業務委託案件が堅調に推移し、前同比101.8%と増収になりました。営業利益は、前期にデータセンターに関わる投資が完了し、原価率が改善したことなどにより前同比169.9%と増益になりました。



4.連結損益計算書

(単位：百万円)

	2017年12月期	2018年12月期	前同差	前同比	2018年12月期	
	3Q累計実績	3Q累計実績			3Q累計計画	計画比
売上高	134,809	152,783	+17,973	113.3%	139,200	109.8%
売上原価	103,815	117,114	+13,298	112.8%	-	-
売上原価率	77.0%	76.7%				
売上総利益	30,994	35,669	+4,674	115.1%	-	-
売上総利益率	23.0%	23.3%				
販売費及び一般管理費	24,209	27,008	+2,799 ①	111.6%	-	-
販管費率	18.0%	17.7%				
営業利益	6,785	8,660	+1,875	127.6%	6,940	124.8%
営業利益率	5.0%	5.7%			5.0%	
営業外収益	333	433	+99	129.9%	-	-
営業外費用	176	79	△ 97	45.0%	-	-
持分法による投資損益	191	301	+109	157.3%	-	-
経常利益	7,133	9,315	+2,181	130.6%	7,330	127.1%
経常利益率	5.3%	6.1%			5.3%	
特別利益	672	1,004 ②	+332	149.5%	-	-
特別損失	803	2,108	+1,304	262.3%	-	-
税金等調整前四半期純利益	7,001	8,211	+1,209	117.3%	-	-
法人税等合計	2,223	3,364 ③	+1,141	151.3%	-	-
四半期純利益	4,778	4,846	+68	101.4%	-	-
非支配株主に帰属する四半期純利益	862	249	△ 612	29.0%	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,916	4,597	+680	117.4%	4,260	107.9%
親会社株主に帰属する四半期純利益率	2.9%	3.0%			3.1%	

損益計算書のポイント

① 販売費及び一般管理費 (+2,799百万円)

活況なマーケットに積極的に対応するための体制強化および拠点整備に関わる費用の増加等

② 特別利益 (1,004百万円) 特別損失 (2,108百万円)

特別利益は投資有価証券売却益および事業譲渡による譲渡益
特別損失は事業の見直しにおけるのれん減損損失等

③ 法人税等合計 (+1,141百万円)

のれんの減損にともなう繰延税金資産の取り崩しによる増加等

5.連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2017年12月期 期末	2018年12月期 3Q期末	前期末差	2017年12月期 3Q期末(参考)
流動資産	72,457	75,956	3,499①	69,392
現金及び預金	18,851	20,135	1,284	17,817
受取手形及び売掛金	40,288	41,979	1,691	38,615
有価証券	5,200	4,000	△ 1,200	5,200
たな卸資産	3,248	4,100	852	2,400
繰延税金資産	2,435	2,649	213	2,970
その他	2,434	3,092	658	2,388
固定資産	102,110	118,590	16,479②	98,127
有形固定資産	65,220	82,364	17,144	64,702
無形固定資産	6,821	4,959	△ 1,862	6,872
投資その他の資産	30,068	31,266	1,197	26,553
資産合計	174,568	194,547	19,978	167,520
流動負債	39,197	57,740	18,542③	37,671
支払手形及び買掛金	9,977	10,456	479	9,438
短期借入金	6,964	19,884	12,919	7,547
コマーシャル・ペーパー	1,500	5,000	3,500	-
未払費用・賞与引当金	7,751	10,351	2,600	9,276
未払法人税等	2,102	2,418	315	2,290
工事損失引当金	173	100	△ 72	94
その他	10,728	9,528	△ 1,200	9,024
固定負債	16,959	15,663	△ 1,295	15,823
長期借入金	4,182	2,828	△ 1,353	4,163
その他	12,776	12,834	57	11,660
負債合計	56,156	73,403	17,246	53,495
純資産合計	118,411	121,143	2,732	114,025
負債純資産合計	174,568	194,547	19,978	167,520

貸借対照表のポイント

① 流動資産 (+3,499百万円)

好調な受注環境による売上債権や現預金の増加等

② 固定資産 (+16,479百万円)

拠点整備によるオフィススペース確保のための
土地・建物等の取得

③ 流動負債 (+18,542百万円)

土地・建物等の取得資金としての借入等

6.連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2017年12月期 3Q累計実績	2018年12月期 3Q累計実績	前同差
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,443	7,882	+438
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,332	△ 20,688	△ 17,356
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,282	13,559	+18,842
現金及び現金同等物に係る換算差額	40	△ 83	
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,130	669	
現金及び現金同等物の期首残高	21,790	22,157	
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,660	22,827	

キャッシュ・フローのポイント

●営業活動によるキャッシュ・フロー

当期は7,882百万円の収入となりました。なお、前同差は増収による入金増加により、438百万円の増加となりました。

●投資活動によるキャッシュ・フロー

当期は体制強化に向けたオフィススペースの確保のための、土地、建物の取得およびソフトウェア等の支出などにより20,688百万円の支出となりました。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

当期はコマーシャル・ペーパーの発行および借入の増加により、13,559百万円の収入となりました。

7.連結 S I 事業の受注高・受注残高

(単位：百万円)

			2018年12月期		3Q累計実績			
	期首受注残高	前同比	受注高	前同比	売上高	前同比	期末受注残高	前同比
SI事業 合計	40,094	114.6%	145,657	113.1%	141,836	113.6%	43,915	113.1%
システム構築	27,450	115.3%	87,841	112.8%	84,353	112.1%	30,938	117.1%
組込系／制御系ソフトウェア	11,436	114.6%	45,362	111.5%	43,832	112.2%	12,966	111.8%
業務系ソフトウェア	16,014	115.9%	42,478	114.3%	40,520	112.0%	17,972	121.3%
プロダクト・サービス	12,644	113.2%	57,815	113.6%	57,482	115.8%	12,976	104.5%
プロダクト・サービス	9,718	119.0%	46,387	117.8%	46,021	119.9%	10,084	109.9%
アウトソーシング	2,926	97.4%	11,427	99.4%	11,461	101.8%	2,892	89.1%

受注高・受注残高のポイント

● システム構築分野のポイント

- ・組込系/制御系ソフトウェア
自動車関連の受注が好調に推移し、期末受注残高は前同比111.8%となりました。
- ・業務系ソフトウェア
流通・サービス向けは、前期に大型案件があったことにより受注が減少したものの、金融業向け、製造業向けを中心に全般に受注が好調に推移し、期末受注残高は前同比121.3%となりました。

● プロダクト・サービス分野のポイント

- ・プロダクト・サービス
他社製品販売の受注が好調に推移しました。一方で、大型の案件が売上転換したことなどにより、期末受注残高は前同比109.9%となりました。
- ・アウトソーシング
流通・サービス向けの受注が減少し、継続案件が減少したことなどにより、期末受注残高は前同比89.1%となりました。



※ 本資料に掲載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて合理的と判断したものです。実際の業績は市場動向、経済情勢など様々な要因の変化により大きく異なる可能性があります。

また、資料配布の目的が、当社株式の保有継続および追加購入を推奨するものではないことも、併せてご理解いただきますようお願い申し上げます。